

I 社会保障の役割

〔社会保障の果たすべき機能〕

- ・ 個人が一人ひとりの能力を十分発揮し、自立し尊厳を持って生きることのできる社会に不可欠なセーフティネット

〔社会保障と経済〕

- ・ 雇用創出、消費の安定を通じて経済に寄与する
- ・ 社会保障を維持し、社会活力ある経済の活性化に寄与する

〔医学・医療の進歩と社会保障〕

- ・ 遺伝子解析等による新たな医学技術の発展は、これからの医療の在り方を大きく変え、健康寿命を伸ばし、活力ある長寿社会を確実に



現行制度の維持ではなく、不断の見直し、必要な改革を進めることにより社会保障の機能を維持



III 21世紀の社会保障に向けての国民の選択のために

〔選択の幅〕

負担を増大させても給付を確保していく選択

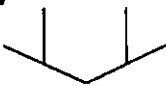
- ・ 給付と負担が現在の約1.5倍
- ・ 負担は現在のドイツ、フランスとイギリスの間の水準

→ 将来の負担の中核を担う若い世代の理解を得られるか

負担を増大させずに給付を見直していく選択

- ・ 厚生年金では将来に向けた給付総額をさらに4分の1削減
- ・ 基礎年金水準も現行の6割程度
- ・ 医療では、2025年時点の推計医療費81兆円と給付費42兆円との間におおよそ40兆円のギャップ。

→ セーフティネットとしての重要な機能を果たせるか



〔社会保障の進むべき途〕

- ・ 将来に向けてある程度の負担の増加は避けられないものの、できる限り負担増、特に現役の負担増を抑える
- ・ なお増加する負担については、保険料及び公費負担で。公費負担 → 税制の在り方についても検討



スリムで強固な社会保障

（このままで推移する姿に比べ規模の増大は抑制されるものの、持続可能で、必要な給付が確実にされる強固な社会保障）

II 持続可能な社会保障

〔世代間の公平の視点〕

- ・ 世代間で全く負担の違いのないシステムを考えることは難しいが、より公平なものとしていく努力は欠かせない

〔持続可能な社会保障の構築に向けた方策〕

- ・ 給付と負担のバランスが重要
- ・ 負担の裾野を拡げ、給付の増加を抑える

〔考えられる方策〕

- 1 支え手を増やす
- 2 高齢者も能力に応じ負担を分かち合う
- 3 給付の見直しと効率化

〔社会保障の財源の調達〕

- ・ 社会保障の財源方式
 - 「事前の備え」であり、「自助を共同化」（共助）した社会保険方式がふさわしい
- ・ 公費負担の在り方
 - 保険料水準の上昇により高まる公費負担の必要性
 - 基礎年金の国庫負担2分の1への引上げをどう行うかが課題

IV 21世紀の社会保障のために

〔選択に当たって〕

- ・ 社会保障の意義、機能を十分理解した国民の選択
- ・ 政治システムにおける党派を超えた国民的な合意
- ・ 雇用や社会保障負担の面での企業の社会的責任

〔政策運営の在り方について〕

- ・ 厚生労働省の政策調整機能の強化
- ・ 各省庁の枠を超えた対応
- ・ 税と社会保障を総合的にとらえ、世代間、世代内の公平を確保
- ・ できるだけ早急な改革への取組（改革の速度）
- ・ 政府において実効ある体制整備、税制等関連する諸制度を含めた総合的包括的な改革に取り組む